

問1 島根県にある石見銀山が、2007年に世界文化遺産に登録された歴史的な背景や理由として最も適切な説明を次の中から選びなさい。（2016年

鳥取県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 16世紀から17世紀にかけて大量の銀を産出し、アジアだけでなくヨーロッパ諸国との貿易においても重要な役割を果たしたため。 | 2. 飛鳥時代に日本で初めて銅が発見された場所であり、日本最古の貨幣である和同開珎の原料を供給したため。 | 3. 明治維新後に政府によって官営模範工場が設置され、日本の近代産業の発展を象徴する場所となったため。 | 4. 瀬戸内海の手運を利用して全国に銅を供給し、江戸幕府の貨幣制度の安定を支えた最大の拠点であったため。 |
|---|--|---|--|

問2 島根県に位置し、戦国時代から江戸時代にかけて大量の銀を産出した日本最大級の銀山で、2007年に世界文化遺産に登録された場所を次の中から選びなさい。（2016年 鳥取県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 佐渡金山 | 2. 生野銀山 | 3. 石見銀山 | 4. 別子銅山 |
|---------|---------|---------|---------|

問3 室町幕府の権威が衰退した戦国時代、各地で実力を持った戦国大名が登場しました。彼らが幕府の法律に頼らず、自らの領国を独自に支配し、家臣や民衆を統制するために制定した法律を何とといいますか。（2022年 和歌山県公立入試 類似）

- | | | | |
|--------|----------|----------|-----------|
| 1. 分国法 | 2. 御成敗式目 | 3. 武家諸法度 | 4. 公事方御定書 |
|--------|----------|----------|-----------|

問4 16世紀後半に甲斐や信濃の一部で使われていた、度量衡に関する独自の基準である「甲州ます」の説明として、最も適切な記述を選びなさい。

（2020年 愛知県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|--|---|
| 1. 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた | 2. 将軍の足利義昭が京都の商人に命じて作らせ、全国の有力大名に配布した標準的な枡である | 3. 南蛮貿易を通じてキリスト教の宣教師たちが持ち込んだ、西洋式の容積単位に基づいた枡である | 4. 江戸幕府が貨幣制度の安定を目指して制定した、全国で唯一使用が認められた公認の計量器である |
|---|--|--|---|

問5 14世紀から15世紀にかけて、室町幕府の支配力が次第に弱まり、幕府の権威が失墜していきました。このような社会情勢の中で、下の者が実力で上の者を倒して地位を奪う風潮が広まりましたが、この風潮を何と呼びますか。（2024年 秋田県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|--------|---------|---------|
| 1. 尊王攘夷 | 2. 下剋上 | 3. 門閥政治 | 4. 大政奉還 |
|---------|--------|---------|---------|

問6 戦国大名が定めた法律の内容に多く見られる、「家臣同士が私的な争いを起こした場合、その理由の正当性を問わず、双方とも処罰する」という原則を何と呼びますか。（2020年 佐賀県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------|---------|-----------|----------|
| 1. 喧嘩両成敗 | 2. 目目安箱 | 3. 連座（縁座） | 4. 奉公と恩賞 |
|----------|---------|-----------|----------|

問7 日本地図において、中国地方の日本海側に面した島根県に所在し、かつて「灰吹法」という技術を導入して生産量を飛躍的に高めた銀山を次の中から選びなさい。（2016年 鳥取県公立入試 類似）

- | | | | |
|---------|---------|----------|---------|
| 1. 石見銀山 | 2. 生野銀山 | 3. 富岡製糸場 | 4. 足尾銅山 |
|---------|---------|----------|---------|

問8 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景や目的として、最も適切な説明を選びなさい。（2023年 福井県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 鎌倉幕府が御家人たちの領地争いを裁判によって公正に解決し、武士の支持を集めようとしたから | 2. 応仁の乱を経て室町幕府の支配力が弱まったため、大名が実力で自国の武士や民衆を統制する必要があったから | 3. 江戸幕府が大名たちの婚姻や城の修理を制限し、全国の諸大名を統制しようと考えたから | 4. 明治政府が近代的な国家を建設するために、西洋の法制度を取り入れて国民の権利を定めようとしたから |
|---|---|---|--|

問9 越前国の戦国大名である朝倉氏が、拠点である一乗谷を中心とした領国支配を強めるために実施した政策の説明として、最も適切なものはどれですか。（2024年 滋賀県公立入試 類似）

- | | | | |
|-------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|--|
| 1. 一乗谷を商業専用の都市とし、家臣が居住することを厳しく制限した。 | 2. 室町幕府の法令のみを遵守させ、独自の法による支配を一切行わなかった。 | 3. 家臣を一乗谷に集住させ、領内に勝手に城を築くことを禁止した。 | 4. 家臣をそれぞれの所領に住まわせ、各地に防御のための城を自由に築かせた。 |
|-------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|--|

問10 戦国時代の堺において、自治的な運営を支えた商人の経済力や、当時の文化的な背景を説明した文として最も適切なものはどれですか。（2023年 滋賀県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. キリスト教の布教を認める代わりに、南蛮貿易を独占してヨーロッパの文化のみを追求した。 | 2. 朝廷からの特権を得た公家たちが、伝統的な和歌や蹴鞠の文化を町衆に広めた。 | 3. 会合衆と呼ばれる商人たちが町を治め、鉄砲の製造技術を取り入れることで軍事的・経済的地位を高めた。 | 4. 勘合貿易の独占によって得た利益を背景に、幕府の役人が直接町を支配した。 |
|---|---|---|--|

問11 15世紀後半の応仁の乱以降、室町幕府の権威が低下するなかで、各地の戦国大名が自らの領国内を独自に統治・管理するために制定した法律を何というか、正しい名称を選びなさい。（2023年 福井県公立入試 類似）

- | | | | |
|----------|--------|----------|-----------|
| 1. 武家諸法度 | 2. 分国法 | 3. 御成敗式目 | 4. 公事方御定書 |
|----------|--------|----------|-----------|

問12 戦国時代、現在の島根県に位置する石見銀山は日本最大級の銀山として知られていました。この銀山の支配権をめぐる、中国地方を舞台に激しい抗争を繰り広げた戦国大名の組み合わせとして適切なものはどれですか。（2026年 島根県公立入試 類似）

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 島津氏と大友氏 | 2. 尼子氏と毛利氏 | 3. 織田氏と今川氏 | 4. 武田氏と上杉氏 |
|------------|------------|------------|------------|

問13 戦国時代に各地を支配した戦国大名の多くは、「下剋上」という風潮の中で台頭しました。この時代における「下剋上」の説明として、当時の社会状況をふまえた最も適切なものはどれですか。（2016年 静岡県公立入試 類似）

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。 | 2. 農民たちが宗教的な団結を強めることで、武士の支配を実力で排除して自治を行った。 | 3. 朝廷の権威を背景とした下級武士が、実力行使によって幕府の政治を批判し、地位を向上させた。 | 4. 幕府から任命された守護が、自らの実力を高めて隣国を吸収し、支配権を世襲していった。 |
|---|--|---|--|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 16世紀から17世紀にかけて大量の銀を産出し、アジアだけでなくヨーロッパ諸国との貿易においても重要な役割を果たしたため。	石見銀山は、最盛期には世界の銀産出量の約3分の1を占めていたと言われるほど生産量が多く、大航海時代の欧州諸国の地図にもその存在が記されていました。また、銀山を運営するにあたって周辺の森林を過剰に伐採せず、持続可能な資源管理を行っていた点も、世界遺産としての高い評価につながっています。
問2	答え 3 石見銀山	島根県大田市に位置するこの遺跡は、16世紀に博多の豪商らによって本格的な開発が始まり、江戸時代には幕府の直轄地（天領）として重要な財源となりました。良質な銀を大量に産出したことから、東アジアやヨーロッパとの交易において極めて重要な役割を果たしたことが評価され、世界文化遺産に登録されています。
問3	答え 1 分国法	室町幕府の支配力が弱まり、各地の守護大名が自らの実力で領地を治める戦国大名へと成長する過程で、独自のルールが必要となりました。これを分国法（または「家法」）と呼びます。鎌倉幕府の御成敗式目や江戸幕府の武家諸法度とは異なり、各大名が自分の領国内だけで適用するために定めたという点が特徴です。
問4	答え 1 中央の京で使われていた標準的な枡とは容量が異なり、地域独自の経済基準として運用されていた	甲州ますは、戦国時代に武田氏の領国などで使用された枡です。当時、中央では「京枡」が使われていましたが、地方の有力大名は自分の領内の経済や税（年貢）の徴収を管理するために、独自の度量衡を定めていました。甲州ますの容量が京の基準と異なっていたことは、当時の地域社会が独自の経済圏を持っていたことを象徴しています。足利義昭などの将軍が全国の基準を統一した事実はなく、むしろこうした地域ごとの差異が戦国時代の特徴の一つと言えます。
問5	答え 2 下剋上	応仁の乱以降、室町幕府の将軍や守護大名の権威が低下したことで、実力を持つ家臣や国人が主君を追放して自ら領地を治める動きが全国で見られるようになりました。この現象は戦国時代の大きな特徴であり、新たな支配者である戦国大名が誕生する要因となりました。
問6	答え 1 喧嘩両成敗	戦国大名にとって、領国内の家臣同士が私的な理由で武力衝突を起こすことは、領土の防衛力を低下させる大きなリスクでした。そのため、個別の事情に関わらず争いそのものを厳禁し、大名による一元的な裁判権を確立するためにこの原則が多くの分国法に盛り込まれました。
問7	答え 1 石見銀山	石見銀山では、鉱石から銀を取り出す「灰吹法（はいふきほう）」という技術が導入されたことで、生産量が急増しました。兵庫県の生野銀山や、愛媛県に位置し銅を産出した別子銅山などと混同しやすいですが、島根県という立地と、大航海時代の世界経済に影響を与えた規模の大きさが石見銀山の大きな特徴です。
問8	答え 2 応仁の乱を経て室町幕府の支配力が弱まったため、大名が実力で自国の武士や民衆を統制する必要があったから	応仁の乱によって中央政府である室町幕府の権威が失墜すると、各地の大名は自らの力で領国を維持しなければならませんでした。領国内の紛争を解決し、家臣を団結させて軍勢力を高めるために、独自の法律が必要とされました。選択肢にある「武家諸法度」は江戸時代、「御成敗式目」は鎌倉時代、「明治の法制度」は近代のもです。
問9	答え 3 家臣を一乗谷に集住させ、領内に勝手に城を築くことを禁止した。	朝倉氏は一乗谷に家臣を集めて住まわせることで、家臣がそれぞれの領地で独立した勢力を持つことを防ぎ、主君による直接的な統制を強めようとしていました。また、家臣が勝手に城を築くことを禁じた点も、大名への権力集中を図る戦国大名特有の政策といえます。このような集住政策は、後の江戸時代の城下町の形成にもつながる先駆的な取り組みでした。
問10	答え 3 会合衆と呼ばれる商人たちが町を治め、鉄砲の製造技術を取り入れることで軍事的・経済的地位を高めた。	堺の商人は、自由な経済活動を守るために「会合衆」を結成して自治を行いました。彼らは伝来したばかりの鉄砲の製造に着目し、その技術を確立することで各地の戦国大名と取引を行い、強大な影響力を持ちました。また、こうした豊かな経済力を背景に千利休が「わび茶」を完成させるなど、独自の町衆文化を形成しました。
問11	答え 2 分国法	室町幕府の統治能力が弱まった戦国時代、各地の戦国大名が領国を安定して支配するために独自に定めた法典です。幕府の法（幕府法）や荘園領主の法ではなく、大名自身の権力に基づいて定められた点に特徴があります。
問12	答え 2 尼子氏と毛利氏	石見銀山は現在の島根県大田市に位置し、戦国時代にはその莫大な利益を求めて周辺勢力が激しく争いました。当初は出雲国（現在の島根県東部）を拠点とした尼子氏が支配を強めていましたが、安芸国（現在の広島県）から勢力を伸ばした毛利氏がこれに挑み、長期にわたる抗争の末に毛利氏が支配権を確立しました。山梨県の武田氏や鹿児島県の島津氏は、活動拠点が異なるためこの地の直接的な支配権争いには関わっていません。
問13	答え 1 下の者が実力で上の者に打ち勝って地位を奪い、新たな領主として領国支配を広げていった。	戦国時代には、本来は主君に仕える立場であった守護代や国人などが、武力などの実力によって守護大名を追放したり、倒したりして自らが戦国大名へと成長する事例が多く見られました。これにより、室町幕府の任命に基づかない新しい支配体制が各地に形成されました。他の選択肢は一向一揆や守護大名の強化、幕末の動きを説明したものです。